

第7回福島県都市計画審議会都市政策推進専門小委員会 会議の概要

日 時：平成27年 2月10日（火） 13：00～

場 所：福島テルサ 4階 つきのわ

1. 開会

2. 挨拶

福島県土木部次長（都市担当） 鈴木典弘

3. 議事内容

- 3.1 浜通りの都市計画区域マスタープランの見直しの流れについて
- 3.2 浜通りの都市の現況について
- 3.3 浜通りの都市づくりの視点・基本方針の検討について

4. 審議内容

4.1 浜通りの都市計画区域マスタープランの見直しの流れについて

事務局より浜通りの都市計画区域マスタープランの見直しの進め方を説明。

4.2 浜通りの都市の現況について

浜通りの人口の動向、産業の変化について、都市計画基礎調査等を基に議論された。主な意見・質問は以下の通り。

<主な意見・質問>

- ・浜通り全体の将来人口の検討にあたり、避難者数を避難元と避難先で重複して集計しないように注意が必要。また、現住人口にカウントされていない受入避難者を把握して受入れ方を検討する必要がある。
- ・人口については、工事関係者や避難者等の数字に表れない部分をどのように考えるかが課題。
- ・震災後大幅に減少した若い世代がどの程度戻ってくるかが重要。

4.3 浜通りの都市づくりの視点・基本方針の検討について

震災からの復興と新たな都市政策を踏まえ、今後の浜通りの都市づくりに必要となる視点や基本方針について議論された。主な意見・質問は以下の通り。

<主な意見・質問>

○都市づくりの視点について

- ・受入避難者の宅地供給に対する取組みについて、整備主体の民間事業者とうまく連携をとらないとコンパクトシティ化は難しい。
- ・人口減少、経済も低調傾向の中で、市街化調整区域における避難者受入れの宅地供給の取り組みは逆行するよう見える。新たな都市づくりの方針に関わってくるのではないか。
- ・経済の低調傾向と、一時的な人口増加の整合を計画の中でどのように図るのか。地価の上昇等の社会情勢の変化をどう見ていくかがポイント。

- ・国の施策や県のイノベーションコースト構想、市町村の復興計画と整合したマスタープランの策定が必要である。

○基本方針の検討について

- ・双葉郡の復興は長期化する可能性もあり、都市計画マスタープランでの対応は困難かもしれないが、連携を常に図っていかなければいけない。
- ・震災前から住んでいた人達にとって、拠点のあるまちづくり、コミュニティーの場が大切。ソフト面も考えて欲しい。
- ・「災害に強い」、「防災に強い」、「復興に強い」「持続可能」等を受けた方針が必要。
- ・「防災」、「減災」、「レジリエンス（しなやかさ）」、「復元力」等のキーワードが挙げられた。その中でも核（拠点）を念頭に置いて方針を考えることがコンパクト+ネットワークにつながっていく。
- ・「多少のことでは負けない」という福島としての個性を盛り込んで欲しい。

○今後の進め方について

- ・次回は、都市計画基礎調査結果の再整理、追加説明を事務局に行ってもらおう。復興と一体となった見直しを意識して、しっかりとした基本方針を定めていく。次回の開催期日は改めて連絡する。

以 上